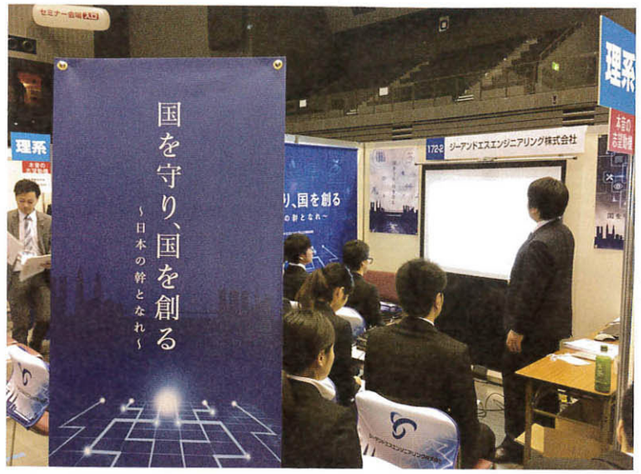

ヒルトン福岡シーホークでの就活フェアの様子

G&S ENGINEERING CO.,LTD
ジーアンドエスエンジニアリング
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-24-9
Tel.092-481-3100
http://www.gands.co.jp/

～関東圏では優良工事表彰や局長賞など13年度から3年連続で受賞～

「〝国を守り、国を創る〟使命感で日本の幹となるべき人材を育成」

都市生活を支える道路や河川、橋梁（きょうりょう）などの構造物の設計を中心に、九州・関東圏に営業拠点を展開する地場大手建設コンサルタントのジーアンドエスエンジニアリング（福岡市、児玉和久社長）。40年以上にわたり構築した技術力は高い評価を受け、関東では3年連続で東京都建設局の局長賞や優良工事表彰を受賞している。児玉社長は次世代へのものづくりの継承のため「国土を支える志を持った人を教育したい」と若手採用を積極的に進めている。

児玉 和久社長

「創造力が技術力」に直結 建設コンサルの魅力とは

ことし、ヒルトン福岡シーホークで行われた就活フェア。さまざまな企業がブースを出展する中で、ひときわ目を引いたキャッチコピー「国を守り、国を創る～日本の幹となれ～」。いったい何の業種なのか、どんな企業なのか、学生たちも戸惑ったに違いない。それこそが児玉社長の狙いであり、建設コンサルタントという仕事を端的に示したキーワードでもあった。

そもそも建設コンサルタントは、実際に工事を請け負うゼネコンとは違い、発注者である官庁などからゼロベースのアイデア段階から相談を受け、「技術パートナー」として専門的な知識でアドバイスを行う。綿密な調査や想定されるシミュレーションなど、設計の詳細を詰め、官庁と二人三脚でアイデアを具現化していくことが仕事だ。実際にその企画はのちに仕事として入札に掛けられるので、携わった企画を必ずしも落札できるわけではない。その意味では厳しい側面もあるが、児玉社長は「創造力が技術力に直結する仕事」であり、「ゼロから立ち上げていく大変やりがいがある仕事」と力説する。

同社は1973（昭和48）年に建設コンサルタントとして設立され、都市インフラとして欠かせない道路、橋梁（きょうりょう）などの調査・設計業務や上下水道、河川、砂防、海岸などの調査・設計、測量、地質調査など元請け事業者として公共事業に注力し、さまざまな設計・調査を手掛けてきた。建設コンサルとしては地場トップクラスで、九州を中心に年間200件にも上るプロジェクトを受注しており、こうした圧倒的な受注力で豊富な実績を誇る。特に、関東圏では13年度から3年連続で東京都建設局から局長賞や優良工事等表彰を受賞するなど、その技術力は高い評価を受けている。

防災関連では調整池の設計などで実績重ねる

「国を守り、国を創る」とは何か。つまり、生活に欠かせない社会インフラの設計・企画などを通じて「自分たちが暮らす街を自分たちで守る」（児玉社長）ことにある。昨年は熊本地震が発生し、いつ襲ってくるかわからない自然の脅威を実感したばかりだ。

同社では過去に、福岡市の山王公園雨水調整池の設計を手掛けた。地下神殿のような異空間がテレビなどでたびたび話題になったが、ゲリラ豪雨などによる水害の脅威から都市機能を守るために造られた調整池で、貯水量は約3万立方㍍。近年、福岡市内を流れる御笠川が氾濫し博多駅周辺が水没するなど甚大な被害を受けたことから、2004年に新設された緊急浸水対策事業の一環として設計業務を受注した。

この実績を受けて福岡県春日市では地下調整池の設計を受注した。「春日市ふれあい文化センター」の駐車場地下に雨水貯留施設を建設する設計では、約1万5000㌧の水を貯留できる、電動ポンプではなく自然排水できる仕組みになっているのが特徴となっている。この他にも、橋梁など老朽化した社会インフラの長寿命化、補修・修繕に関する仕事にも力を入れている。

変わったところでは、福岡県発注の全国初となる移動式水素ステーションの設計だ。「当社では未経験の分野だったので、社内でも賛否両論あったが、新しい挑戦が必要と考えた」（児玉社長）と話し、結果、見事に受注し、建設コンサルタントとしては異例の仕事を成し遂げた。

また、「農業土木」分野への本格参入の準備を進めている。かつては工事量も多かった農業土木分野だが、近年は農業の落ち込みとともに仕事量も減少しており、新規参入する分野とも思えないが、「誰もやらないことにこそ価値がある」として意に介さない。

山王公園地下の貯水池

春日市の雨水貯留施設の完成イメージ図

初の高卒者を採用し若手を成長の原動力に

こうした挑戦には当然、意味がある。児玉社長は「いま当社に必要なのは若いパワーだ。ベテランの技術者が持つ経験やノウハウを継承し、若い世代の柔軟で斬新な発想と行動力が、未来の当社を支える原動力になる」と信じ、若い力が持つチャレンジ精神で、新しい技術者を育成したいとの強い思いがある。

そのため、新卒採用のための会社説明会には必ず児玉社長自らが出席し、共に将来のために頑張ってくれる人材に目を光らすという。17年度は11人の内定者を出した。特に、ことしは福岡工業高校から高卒者を初めて採用した。児玉社長は「いまの大学生には気概が感じられないことも少なくない。工業高校などの高校生の方が目的意識がしっかりしている」として、今後は高卒者の採用にも力を入れていく方針だ。

児玉社長は「国というのは国土。つまり社会インフラを維持し、時代に応じて必要な新たなものを創造することで社会に貢献していくのが建設コンサルタントの使命だと思っている」。未来をともに築ける若き技術者の獲得と育成に汗をかく日々はまだまだ続きそうだ。